

表 4-3 リスクの優先度

リスク	優先度
高	直ちに対応すべきリスクがある
中	速やかに対応すべきリスクがある
低	必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある

労働衛生編（暑熱）

1. リスクの見積り

リスクの見積り基準には、以下の文献を参考に作成しました。

1. 平成 17 年 7 月 29 日付け基安発第 0729001 号「熱中症の予防対策における WBGT の活用について」
2. 日本体育協会(1994) 熱中症予防のための運動指針
3. 日本工業規格 Z8504 (人間工学-WBGT (湿球黒球温度) 指数に基づく作業者の熱ストレスの評価-暑熱環境) 附属書 A「WBGT 熱ストレス指数の基準値表」

(1) 有害性のレベル分け

リスクアセスメント実施一覧表（労働衛生：暑熱）の「2 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」ごとに、特定された① WBGT 指数※1、② 乾球又は湿球温度が、表 5-1 の有害性のレベルのいずれに該当するか確認し、そのレベルを「4 リスクの見積り」の「**有害性レベル**」欄に記入します。

※1 WBGT (湿球黒球温度：Wet Bulb Globe Temperature) とは、熱中症になりやすい気象状況かどうか分かる基準のことです。

表 5-1 有害性のレベル

有害性のレベル	WBGT 指数	WBGT 計が用意できないときの指標	
		乾球温度	湿球温度
A	31℃以上	35℃以上	27℃以上
B	28～31℃	31～35℃	24～27℃
C	25～28℃	28～31℃	21～24℃
D	21～25℃	24～28℃	18～21℃
E	21℃まで	24℃まで	18℃まで

(2) 作業の程度分け

暑熱作業における作業の程度を表 5-2 から選び、その作業程度の内容を「4 リスクの見積り」の「**作業の程度**」欄に記入します。